



かみせや

横浜市立上瀬谷小学校 学校だより

令和5年5月31日

6月号

地域版

上瀬谷小学校教育目標

学び合う子

認め合う子

鍛え合う子

瀬谷オープンガーデンから見えてくるもの、つながること

副校長 柴田 耕治

4月、「ちょこっとボランティア」による雑草取り、6年生による案内表示を整えて迎えた瀬谷オープンガーデン。楽園のような春の中庭への入場者は、区の担当者を除けば10名に達しませんでした。

「この日に向けて、準備してきたつもりだったのに…」

という悔しさをバネに、6年生による瀬谷オープンガーデン5月の部【19日（金）～21日（日）】への挑戦が始まりました。

『上瀬谷小きらぼかガーデン』という名前は、今年卒業した先輩たちがつけてくれた名前です。わたしたちは上瀬谷小のきれいな花や中庭の様子をもっと多くの人に知ってもらえたらいいなと思って、伝える活動をしたと考えました。」

ケーブルテレビJ:COMのLIVEニュース配信、全校配付のチラシ閲覧、町内会掲示板の使用許可、瀬谷北部連合町内会のホームページへの掲載など、中庭の一般公開直前まで、6年生の想いに共感してくださった実に多くの方々のお力添えをいただきました。

当日、6年生の作ったチラシを見て、来校してくださった方々も大勢いました。町内会の掲示板を見て知ったという方もいました。3日間の来場者数の合計は、61名に上りました。

「これから咲くお花もあるようなので、また違った季節に見られたらいいなと思いました。」

きらぼかガーデン交換ノートには、嬉しい感想がたくさん書かれていました。

「こんな素敵な中庭があるなんて、知りませんでした。維持管理するのは大変なことだと想像します。」

上瀬谷小のガーデニングの中心的な役割は、今年度から地域学校協働本部の委員となった小宇佐さんが担っています。飼育栽培委員など高学年の児童も休み時間などによくやっています。しかし、限られた時間の中では手が回らないほど、上瀬谷小の花壇の規模が大きいのです。一方、その管理のための「当番」のようなものが決まっていません。どうして維持されているのか。実は、「隙間の時間」に花柄を摘んだり草取りをしたりしている人がいるのです。中庭に「こうあって欲しい」という「思い」をもった有志の一人ひとりの「かわり」によって維持・管理されているのです。

21日（日）の昼頃、瀬谷オープンガーデンで公開している地域の深沢さんのお宅を訪ねました。5月の花壇の様子は、上瀬谷小の中庭も同様に、4月に比べると枯れた花も見られました。



▲ご夫婦でガーデニングを楽しむ深沢さん

「ちょうどいいタイミングで見つけないと、種は自分でこぼれてしまうので、毎朝、ちゃんと見てあげるんです。枯れたところは、見ていただくには適さないかもしれませんが、『種を取る』ことを目的として置いたままにしています。」

深沢さんの話を詳しく聞くうちに、「種から育てるのが好き。子どもと一緒に小さな命の大切さを感じたい。」と小宇佐さんが話していたのを思い出しました。

そして、5月の、少し枯れた花も見られる中庭のことが、4月の色とりどりの花が咲き誇る中庭とはちがった意味を持って見えるようになりました。

「こちらこそ、話を聞いていただけで、本当に嬉しかったです。」

深沢さんは満面の笑顔で私を見送ってくださいました。オープンガーデンは、こうした対面のコミュニケーションも大きな魅力だと感じました。

上瀬谷小学校の子どもたちにとって、「わたしの話を聞いてもらいたい」と思えるような取組が充実し、「聞いてもらえて嬉しかった」と思えるような相手との出会いに恵まれることを強く願います。



▲学校地域CNの山下さんとHPの原稿確認をする6年生